

『日本靈異記』「災与善表相先現而後其災善
答被縁」

然而寢之
然して寢

【之】
01
示之
示す

爰景戒聞之
爰に景戒聞きて
見之其沙弥前
其の沙弥の前を見れば

而御前居詔之
御前に居(す)ゑて詔して

景戒見之問
景戒見て問ひて

朕子阿倍内親王與道祖親王二人以之
朕の子阿倍内親王と道祖親王と、二人を以ち
て

有側之人聞之皆言
側に有る人、聞きてみな言はく

御語受白之
御語を受け白す

彼乞者咒願受之
彼の乞う者、咒願して受け

時仲丸誓白之
時に仲丸誓ひて白(もう)さく

景戒見之
景戒見て

若我後世違勅詔之者
若し我れ後の世に勅詔に違はば

於斯寫之哉
斯に寫せ

然而後天皇崩之後如彼遺勅語
然うして後に、天皇崩ひて後に彼の遺したまふ
勅語の如く

15
爰景戒之魂神立於燒身之邊而見之
爰に景戒之魂神(たましひ)、身を燒く辺に立ち
て見れば

11
如是詠之
是くの如く詠う

如我能燒之
我の如く能く焼け

14
而思愁之
思ひ愁ふ

景戒見所燒己身之者
景戒焼かるる己の身を見れば

唯惟之者
ただし惟(おも)へば

自今已後待夢見答而知之耳
今より已後、夢に見る答えを待ちて知るのみ

然經之二百廿餘箇日
然うして二百廿餘箇日を経て

【者】

01

若朕遺勅失之者
若朕が遺(のこ)さむ勅を失(あやま)たば

03

彼先舉天下歌詠者
彼の先に天下を舉(こぞ)して歌詠(うた)へるは

07

彼詠歌者
彼の詠歌(うた)へるは

11

先歌詠者
先に歌詠(うた)へるは

14

天皇飛遷者
天皇飛び遷るは

彼月光失者
彼の月光失(う)せたるは

修上品善功德者
上品の善き功德を修はば

修下品善功德者
下品の善き功德を修はば

廻頭而睠乞人者
頭を廻して乞ふ人を睠(かえりみ)れば

修上品下品善者
上品と下品との善を修(おこな)はば

15

彼語言音空不所聞者
彼の語言の音、空しくして聞かれざれば